

千年の森便り No.180

2018.06.20

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

2018年7月16日（月、海の日）晴 定例活動日

この夏は記録的な早さで梅雨が明け、その後は猛烈な暑さが続いています。TVやラジオでは熱中症予防のため水分、塩分の補給をこまめにする、休憩を適宜とることが繰り返し呼びかけられています。

この日も猛暑の予報が出ており、待ち合わせ場所の自然休養村駐車場で事務局長が開口一番に「今日の活動は兎にも角にも全員無事に帰るのが最大の目標だ」と冗談めかして言

ていましたが、その通りだと思いました。会員の高齢化が進んでいますので、無理は禁物です。予定の照度調査とヒメコマツ保護地の下刈りは無事に終わらせることが出来ましたが、水辺周辺のゴミ拾いは次回以降に繰り延べとしました。

植物や昆虫など各自のテーマに沿っての観察は、それぞれ熱心にやっておられました。誰一人救急搬送のお世話にならず、活動を終えられただけで満足です。参加の皆様、お疲れ様でした。（坂本）

参加は秋元、新井通子、伊藤、及川、久我夫妻、栗山、坂本、田島、福島、真鍋、山口の12名でした。



〇ヒメコマツ林の手入れ

ヒメコマツ保全協議会（行政、研究、NPO）により豊英島内の平坦地、急斜面の2箇所に、ヒメコマツ数十本が植栽されて10年余となる。毎年春期に協議会により樹高、根元径の調査が行われており、当会は下草や他の樹木に負けないようしっかり見守る役割を担っている。

枯れた個体も多いが、5メートル超の成長をしている個体もあり、下草刈りの必要性は薄れているが、絡みついたツル類を取り除き、成長の早いアカメガシワ、カラスザンショウなどの灌木類を除去した。なお、周辺の樹木が生長したため照度不足が心配される個体もあり、今後の整備作業の中で対応していきたい。（伊藤）



〇ギャップ更新林の手入れ

かつて薪炭林であった豊英島の落葉広葉樹林は、定期的な伐採で更新（世代交代）を繰り返す中で、様々な年代の森林が並存して、結果的に多様な環境を保全していたと思われる。その後50年近く伐採されていない現在では非常に安定した森林になっている半面、明るい草原的な環境が望めなかったことから、人工的にギャップ（高木層の林冠の隙間）をつくるため、約600㎡を5年ほど前に伐採してギャップ更新林として管理している。

ここでは、さまざまな萌芽や実生を調査し、それを踏まえて必要なものを残す「植えない森づくり」を実践しているが、具体的な残存木の選抜の方法については会内部でも多様な意見があり、試行錯誤が続いている状態である。



今回は、昨冬のパイオニア種の伐採に続き、一定面積について草原的な環境の維持を目指して刈払い機を使った草刈を実施した。今後も慎重かつ大胆に取り組んでいきたい。（伊藤）

○相対照度調査

ギャップ更新林、ヒメコマツ植栽地を中心に相対照度調査を行いました。天気は晴れで雲の動きもあり、相対照度の調査には厳しい条件でしたが、照度計に直達光が入らないように注意しながら照度の測定を行いました。調査時間は、10:25～10:45、照度の測定には、照度計 8 台、トランシーバ 4 台を使用しました。測定箇所は、コナラ伐採地が 20 地点（A-1～D-5）と、千年広場、コナラ更新林の苗畑、コナラ更新林のヒメコマツ植栽地、岬のヒメコマツ植栽地の計 24 地点です。相対照度は、開けた場所（橋の上）の照度を 100%とした時の、各地点の照度の比率（%）です。相対照度はバラツキが大きいことから、各地点で 4～5 回の測定を行い、得られた相対照度の平均値を各地点の相対照度としました。

表 1 にコナラ伐採地における今回の調査結果を、表 2 にコナラ伐採地を含めた全測定箇所の着葉期の相対照度の変化を示しました。コナラ伐採地の相対照度は、最大が 57.6%、最小が 14.6%、平均が 30.7%でした。測定箇所ごとに見ると、1 列と 5 列の C、D が、やや低い傾向を示しました。これは、主に周囲の樹木による被陰の影響とされます。また、日当たりが比較的良好な A、B 列で値のばらつきが大きくなっていますが、これは相対照度を測定する高さが地上高約 1 m であるため、萌芽枝や植生の繁茂が影響していることが考えられます。なお、表 2 の経年変化を見ると、コナラ伐採地ではやや低下する傾向が見られますが、千年広場やコナラ更新林、岬ヒメコマツでは、はっきりした傾向は見られませんでした。（福島）

表 1 コナラ伐採地の相対照度（%）（2018.7.16）

	1	2	3	4	5
A	31.4	27.7	21.2	47.1	29.5
B	35.4	57.6	26.7	44.3	38.1
C	16.8	15.6	21.1	54.0	18.7
D	14.6	22.4	41.8	32.3	18.5

表 2 島内 5 地点の着葉期の相対照度の変化

測定箇所	相対照度（%）						
	2012.7.16	2013.7.15	2014.7.21	2015.8.30	2016.8.21	2017.9.18	2018.7.16
千年広場中央	16.4	16.4	19.3	29.7	26.8	33.9	21.1
コナラ更新林の苗畑	14.0	21.7	22.2	8.8	5.7	22.4	13.0
コナラ更新林ヒメコマツ	42.0	58.1	35.7	43.1	48.5	47.1	41.6
岬ヒメコマツ	22.5	26.6	27.7	33.1	28.3	30.7	37.6
コナラ伐採地			64.5	41.9	38.0	45.7	30.7

コナラ伐採地は、2015年8月以降20地点の平均値

○野鳥記録

ウグイス囀り トビ 1+声 幼鳥らしき声も混じる ハシブトガラス声 ヒヨドリ声 メジロ囀り ダイサギ 1 以上 6 種（メモの順）

猛暑の時間帯は野鳥の活動も不活発と見えて、小鳥類の声はあまり聞こえませんでした。

その中で、ウグイスだけが例外的に元気で、島外の数か所から引切り無しに囀りが聞こえて来ました。

春の子育てが終わって 2 回目、3 回目の繁殖を目指しているのでしょうか。

尚、ウグイスは一夫多妻で雌だけが巣作り、雛への給餌など全てやるそうですから、雄は囀っているのかも知れません。

トビの巣では先月の活動日に雨の中、若鳥が羽を広げてうずくまり、動かなかつたので死んでいるのかと心配された方もいましたが、今月は巣が空っぽになっていました。恐らく無事に巣立ったものと思います。その若鳥かどうかは分かりませんが、成鳥とは少し違った声が照度調査の最中に聞こえました。(坂本)

○昆虫観察記録

ニイニイゼミの声は控えめで心地よいですが、夏本番を知らせるアブラゼミの声は、なぜか暑さを感じます。久我さんの手には、ゴミを背負ったクサカゲロウの幼虫。まるでゴミが動いているようです。久我さんが親切に(いえ虫にとっては迷惑)、ゴミを取り除いて見せてくれました。去年、鳥の巣箱にキイロスズメバチが巣



クサカゲロウ幼虫



巣箱の中のカ



ウラギンシジミ

を作っていましたが、今年は、蛾の「お休みどころ」になっているようです。2頭の蛾が顔を出し、様子を伺っている様子がかわいいこと！ダム湖の干上がった地面でチョウたちが吸水してはオシッコをしています。体温調節？ミネラル補給？アオスジアゲハのきれいなブルーに暫し暑さを忘れました。夏は高い山に行っている



アオスジアゲハ



アキアカネ♀



カブトムシ頭胸部

アキアカネが、なぜか1頭だけ居残っていました。福島さんが頭だけになったカブトムシを発見。「おー、まだ動いている。誰の仕業かな」と盛り上がりました。

(他に観察された昆虫)

シオカラトンボ、モリチャバネゴキブリ、オオカマキリ幼虫、アオバハゴロモ成虫・幼虫、アミガサハゴロモ、ヒグラシ、タマムシ(ヤマトタマムシ)、キマワリ、オオヒラタシデムシ、カナブン、オオスズメバチ、キボシアシナガバチ、ムネアカオオアリ、トゲアリ、シロフアブ、シオヤアブ、トゲツヤシアブ、ホシアシナガヤセバエ、ジャコウアゲハ、ムラサキシジミ、コジャノメ、ヒメジャノメ、ウスグロノメイガの一種、ウスクリモンヒメハマキ、キシタバ、アカスジシロコケガ幼虫 (田島)



ムラサキシジミ(福島)

○クロムヨウラン-トサノクロムヨウラン



トサノクロムヨウラン (新井)



トサノクロムヨウラン (栗山)



トサノクロムヨウラン? (秋元)

(未開花株はトサノクロムヨウランかクロムヨウランか不明なので?としています)

従来豊英島でクロムヨウランとしていた植物が、千年広場周りのコナラ林や巨木林その他森のあちこちに、多数株花又は蕾をつけていました。今年1月神戸大末次先生などの発表で、従来のクロムヨウランの全て又は一部は、その変種「トサノクロムヨウラン」である可能性が濃くなりました。

(詳細は今年1月28日発行の千年の森便りNo.174に添付のプレスリリース「クロムヨウラン」をご覧ください。)

両種には形態的な相違点が詳細に報告されていますが、大きな相違点は、クロムヨウランは蕾が開花せずに結実するが、トサノクロムヨウランは開花して結実する。両種識別の確実な方法は、開花前の蕾の株を結実するまで連続観察して開花を確認し、開花すればトサノクロムヨウラン、開花せずに結実すればクロムヨウランとする方法ですが、連日観察ができない豊英島では実行できません。

昨年まで蒴果が上向きに着く株と垂直にに着く株があったことに着目し、今回は両者の違いを検証するため、開花株約100株に標識杭をつけました。

花の構造にも違いがあるので、開花中に花又は蕾標本を採取して専門家の同定をお願いし、豊英島にはクロムヨウランも自生するのか、全てトサノクロムヨウランなのかを明らかにする必要があります。(真鍋)

○ツチアケビのモニタリング

千年広場南の本年の花茎4本のうち1本は健全で28個の実をつけ、他の2本は4個と1個の実をつけ、他の1本は枯れて黒変していました。

ヒメコマツ柵内では3本とも枯れて黒変していました。



千年広場南のツチアケビ



ヒメコマツ柵内の黒変・全滅したツチアケビ

昨年7月、東大のHelbertさんがヒメコマツ柵内のツチアケビの白いカビを採取し、奈良研究室でDNA分析の結果、Phoma属の病原菌であるとの結果でしたが、黒変の原因はこの病原菌とされます。今年マダケ林及び島入り口、巨木林保護柵内にはツチアケビの発芽はありません。今年のモニタリング結果は千年の森 URL に掲載します。(真鍋)

○シャクジョウソウなど

昨年7月、夏のきのこ観察会吹春コースでシャクジョウソウを見つけ金網で保護しましたが、今年は同じ場所で株が殖えていました。このシャクジョウソウはクリーム色ではなく、美しいバラ色の豊英島名物です。(真鍋)



シャクジョウソウ(新井)



ヤマユリ(秋元)

〇7月活動日の印象に残ったこと

① 6月の定例活動日にギャップ更新林内の草が見事に何者かによって、食い荒らされたのを確認しました。今年は草花が期待できないものと思っていましたがわずかですが復活しておりました。サルトリイバラの幹から2,3の芽が出ていました。チゴユリは数株あり1株に実がついていました。天候のせいかヤマハギはいつもの年より1月ほど早く開花していました。アブは暑さを避けるかのように葉の裏側にじっとしていました。



チゴユリ



ヤマハギ



アブ?

② ギャップ更新林北側の園路でトゲアリがおおきなミミズを捕食していました。1時間もたたないうちに半分ほどのおおきさになっていました。



トゲアリ



クスサン

③ クスサン（通称スカシダワラ）の繭の抜け殻をはじめてみま

した。あらためて自然界の不思議を思いました。（記事・画像とも秋元）

〇センサーカメラの画像

及川さんがメモリーと電池の交換をしています。

今回回収のメモリーにはアナグマ、ニホンザルとハクビシンが写っていました。（坂本）



アナグマ 6月11日 センサーカメラ



ニホンザル 6月10日センサーカメラ



誰の落とし物? (真鍋)

〇島外農地の活用

5月、6月と手分けして土手の草刈をしたので、雑草はそれ程ひどい状態ではありませんでした。

先月、田んぼだった所に枝豆の種を一行、約50メートル蒔きました。その後の様子を見ると、発芽した形跡はありましたが、新芽はほぼ完璧に食われていました。シカの糞が近くに落ちていたので犯人の目星は付きまします。シカは助走の場所があれば電気柵を飛び越えると地主さんが言っていましたが、それが証明されてしまいました。

獣害の酷いのは承知の上なので、これに懲りずに何か別の物を試してみますので、アイデアを下さい。

ハッカ、蓮華草はどうかとの提案や棘無しタラ苗の提供申し出も受けています。（坂本）

お知らせ

〇8月の活動日：8月19日（日）吹春講師をお迎えし、一般公開行事、夏のきのご観察会です。

9時30分、清和県民の森、木のふるさと館駐車場集合、実施要領は添付のご案内の通りです。